

人文学部 後期日程 令和8年度入学試験 小論文
出題意図と解答例

I

【出題意図】

一次資料の伝来・安定的な保存が危ぶまれる現状の諸相をめぐる様々な文章を読み解く能力、解答内容の取舍選択と筋道だった意見を簡潔にまとめる能力を問う。さらに、文章中に述べられる諸事例の一部ではなく、別に自らが持つ情報に基づき、具体的・論理的な根拠を以て論じる力が試される。

【解答例】

問1

資料保全を難しくする最も大きな問題は、激甚災害の発生である。特に古文書などの歴史資料は、各地域の自治体や個人が所蔵している場合が多いため、大規模な災害が起こった時、致命的な被害を受ける可能性が高い。さらにそのような状況では人命救助が最優先となり、歴史資料や文化財保護へ意識が向かず、保全が後回しになりがちな点、また復興に予算が割かれ、資料保全のための費用が確保しづらくなる点も理由として挙げられる。(199 字)

問2

古文書や文化財は、人類が培ってきた財産であり、適切に次世代に引き継がれることが望ましい。しかし、現在の日本では、多発する激甚災害によって、各地域に伝来してきた文化財が被害にあうことが増えている。この問題を解決するためには、どのような方法があるのだろうか。

まず挙げるべきなのは、平時から「災害は起こるもの」として考え、備えを怠らない心構えを養うことが重要だと考える。江戸時代以来の古文書などは、個人が所有しているものも多いが、ただ「自宅に保管している」というだけでは、いざという時に対応できないことも多くなるだろう。しかし、例えばあらかじめ自治体や研究機関に資料を寄託しておく、また写真や詳細な記録を取っておく、といった方法をとれば、被害を未然に防げる、最悪被害を受けたとしても、何がどのような被害を受けたのか把握し、救出できる可能性が高まる。

また、このような活動においては、個々人の防災意識を高めることも重要になる。自分がいざという時に備え、準備しておくことが、資料保全、ひいては災害の被害を小さくでき、結局は文化や歴史を守ることにつながるのだという自覚を持つことが重要となると考える。(493 字)

II

【出題意図】

抽象度の高い英文の意味を正しく読み取る読解力、適切に内容を説明する力、文章を参考にして論理的に述べる思考力、表現力を試す問題である。

【解答例】

問1

歴史を物語として語る際には、結末を決めてから出来事に意味を与える必要があり、出来事
の取捨選択が避けられない。このような目的論的な叙述は、科学的ではなく、作り物の「物語」と
本質的に変わらないから。(97 字)

問2

筆者は、白人中心的な歴史と文学史に対して懐疑心を抱いており、アフリカ系アメリカ人の歴史
は記録されず、切断され、洗い流されてきたと考えている。そのため、筆者は劇場を「歴史的出
来事創造の孵化器」として捉え、先祖の墓を見つけ、骨を掘り起こし、骨の歌を聴き、書きとめるこ
とで、「歴史の創造」を試みている。(148 字)

問3

歴史を語ることは、断片的な出来事を拾い上げ、意味を与え、記録として残すという点で意義が
ある。事実、B の文章に示されるとおり、歴史の物語化をとおして、記録されていない人々の経験
を可視化し、新たな歴史として紡ぎ直すことができる。これは、アフリカ系アメリカ人の歴史が長
らく記録から排除されてきたことへの応答でもある。一方、A によれば、歴史を語る際には、出来
事 of 取捨選択や因果関係の構築が避けられない。つまり、歴史を語る際には、語り手の思想
や立場が反映される危険性がある。歴史は解釈の産物になりうる以上、その視点の偏りを問
い直し、多様な立場を意識的に取り入れる姿勢が求められる。(285 字)